

花の種類と育苗方法の決定

いろいろな色が楽しめる花には、育てやすいもの、1年で枯れてしまうもの、何年も生育して大きくなるものなど、たくさんの種類があります。

花の種類によって、育て方や難易度が異なり、よくプランターなどで見かける開花期間が長い一年草(インパチェンス、日々草、ペチュニアなど)は、種をまく時期を遅らせると花を楽しめる期間が短くなってしまい、早めようとすると温度管理などが難しくなります。



春に種をまき、夏～秋に花を咲かせる種類は、温度管理も比較的やさしく、直接、地面に植えることができるものが多いです。

また、種の大きい種類は、発芽に光を必要としないものが多く、抵抗力が強いのが一般的です。逆に種の小さい種類は、発芽に光を必要とするものが多く、抵抗力が弱いのが一般的です。

種の小さい種類は、発芽時に土壌中の細菌類(カビなど)により成長阻害を受ける危険が高いため、専用土(挿し木・種まき用培養土など)を使用するか、土を殺菌処理する必要があります。

花にはそれぞれ特徴がありますが、花壇を彩り、心に安らぎを与えてくれる花を育てることで、ゆったり、いきいきとしたスローライフを楽しんでみませんか。